



滋賀

2014年(平成26年)1月24日(金曜日)

©中日新聞社 2014 (日刊)

東近江・ 八日市北小

東近江市の八日市北小学校に、洋菓子製造販売「クラブハリエ」(近江八幡市)社長兼グランシェフの山本隆夫さん(四)が訪れ、六年生六十九人にチョコレート菓子の作り方を指導した。

山本さんは四年前、洋菓子作りの技術を競う世界大会で、日本チーム主将として優勝に導いた。今回菓子作りを選んだのは、ところけるチョコが人気の焼き菓子フォンダンシヨコラと、アーモンドシヨ

コラ。

児童はアドバイスを真剣な表情で聞き、オーブンレンジで菓子が焼き上がると笑顔が広がった。寺元涼葉さん(二)は「楽しかった。焼きたてはおいしい」と頬張った。山本さんは

「失敗して学ぶことの大切さを教えたかったが、失敗がなくびっくりした」と話していた。県教育委員会の食育出張講座の一環で、県洋菓子協会とフジノ食品(東近江市)の協力で開いた。(前嶋英則)



山本隆夫さん(四)からチョコレート菓子作りを学ぶ児童。東近江市の八日市北小学校で

和洋菓子職人が授業

滋賀夕刊

便利に、安全に、楽しく

びわ南小でケータイ教室



スマホの正しい利用を児童に呼びかける藤本さん

びわ南小学校で22日、携帯電話会社のアドバイザーによる「ケータイ教室」が開かれ、5、6年生129人が、スマートフォンや無料コミュニケーションサイト「LINE」の安全な使い方を学んだ。

近年、青少年を中心に携帯電話やスマホ、LINEによるトラブルが急増している。同校でも数人の児童がこれらを利用してしているため、被害を未然に防ごうと、「しが学校支援センター」(大津)に講師の派遣を依頼した。

教室ではKDDIの認定講師・藤本安奈さんがアニメを使って▽ワンクリック詐欺▽LINE▽無料ゲーム▽ながらスマホなどの被害例を紹介しながら、児童たちにクイズ形式で機器アプリの使用方法や対処法などをアドバイス。「便利に、安全に、楽しく使って」と児童たちに呼びかけていた。

教室ではKDDIの認定講師・藤本安奈さんが

中日新聞

「携帯」の危険学ぶ

長浜の
びわ南小

長浜市川道町のびわ南小学校で二十二日、KDDI(本社東京)社員による「ケータイの安心・安全な使い方」と題する出前授業があり、五、六年児童百二十九人が携帯電話とネットに潜む危険やマナーを学んだ。

無料通信アプリ「LINE(ライン)」やインターネットの交流サイト(SNS)によるトラブルが増えていることを懸念し、学校が県教育委員会生涯学習課の「地域の力を学校へ」推進事業を活用し、専門の講師を派遣してもらった。

講師の藤本安奈さん(左)はアニメを使って「ワンクリック詐欺」「コミュニティサイト」「無料ゲーム」「ながらスマホに潜む危険」のトラブル例を紹介。児童にクイズを出して防止策を積極的

に考えてもらった。ラインで知り合った見ず知らずの人と会った女性や連れ去られた事例では「知らない人には絶対に会わないで」と注意した。

六年生の樋口敬大君は「無料ゲームをやっけてしまおう。気を付けない」と話していた。(山中正義)



藤本さん(左)の話真剣に聞く児童＝長浜市のびわ南小学校で



新毎日

10月19日(土)

2013年(平成25年)

しが

甲賀市立甲南第2小学校5年の教室で、同市甲南町に住む聴覚障害者、木村茂一さん(56)が「イノシシ」と書かれた紙を見せた。男子児童は同級生の肩をたたき、両手両膝を床につけ、ぐるぐる回った。同級生が首をひねり、教室は笑い声に包まれた。5人目が導き出した答えは「猿」。別のグループのお題は、「水泳」と「野球」。水かきとスインクの動作で正解した。声を使わずに意思を伝える伝達ゲームだ。

木村さんが手話で語りかけた。「聴覚障害者に

うちのイキ押し

身ぶりだけで伝える「伝達ゲーム」に挑戦する児童ら。正解は「水泳」
—甲賀市立甲南第2小学校で



木村さんは同市社会福祉協議会が派遣するゲストティーチャー。視覚や四肢に障害のある人の講演

出会ったら、手話ができないからといって逃げないで。身ぶりや筆談でも会話ができる。分かりましたか?」児童は一斉に両手で「〇」を作った。

甲賀市立甲南第2小学校

ではアイマスクや車椅子を使い、障害に理解を深める。木村さんは子育ての苦労話を披露。「うどん」をほじがる息子の口の動きを「布団」と勘違いし、寝かせようとして泣かせた。耳の聞こえる祖父母になつて寂しかったという。当時使っていた、赤ん坊の泣き声を光と振動で伝える補助具を持参した。木村さんはファクスや携帯電話のメール機能を示し、「年を取れ

ゲーム通じ障害を理解

は誰でも耳が聞こえにくくなる。便利な道具もあるので工夫して会話してみよう」と話した。西村瑠夏さん(11)は「耳が聞こえないのはかわいそうだと思うけど、便利な道具があつて良かった」と話した。

【加藤明子】

◆甲賀市立甲南第2小学校 甲賀市甲南町杉谷2046。全7学級。児童数120人。1874年、昇道小学校として創立。尋常小学校、国民学校を経て、2004年に現在の名称になった。



運転手の死角を確認



しゃがみ込んで運転手の死角を体験する児童たち＝愛知川東小で

愛知川東小で交通安全教室

多様な教育の場を提供している。(辻井勇太)

大型車の死角や自転車の乗り方などを学ぶ交通安全教室が二十日、愛荘町の愛知川東小学校であり、全校児童二百七十人が参加した。

ヤマト運輸滋賀主管支店が主催。児童たちは、トラックから四方に張ったゴムひもの内側にしゃがみ込み、運転手から見えない死角の広さを体験。同社の社員たちは「運転手からはこれだけ見えない場所がある。車の周りで遊んではいけないよ」と指導した。

自転車の乗り方では、ブレーキの効き具合とタイヤの空気圧の関係など、日ごろの点検の大切さを強調し、事故に遭わないように呼び掛けている。

教室は、県教育委員会がつくる「しが学校支援センター」が仲介した。センターは学校側の希望と、地域の協力企業・団体をつないで、交通安全や調理体験、環境問題など多様な教育の場を提供



新毎日

5月18日(土)

2013年(平成25年)

しが

2人1組で向き合い、相手の目を見る。くすくす。笑みがこぼれ表情が緩んだ。自然と声が大きくなる。「おはようございます」。湖南省立日枝中学の2年生は6月の職場体験の前にビジネスマナー研修を受け、接客ロールプレーに挑戦した。実習先に電話で面談の予約を入れる際に必要なマナーを身につけるのが目標だ。講師は企業の新人研修や旅館の接客指導などを20年以上続ける彦根市の人材開発業、上田一貴さん(61)が務めた。

目を合わせ、相手から

うちのイキ押し



ビジネスマナー研修で相手の目を見て、あいさつする中学生—湖南省立日枝中学校で

湖南省立日枝中学校

見た自分をイメージする。同じ列の生徒とおじぎのタイミングを合わせるのはチームワークの基本を学ぶためだ。上田さんは「作り笑顔はいろいろな。企業も学校も信頼関係の基本は同じ」とあいさつ、返事、笑顔の三つだけを練習させた。

今年3月、「10年後の自分」を発表した。菓子職人や保育士、気象予報士、科学者などになる夢を語る生徒がいた。その一方で、「高校は卒業し

たい」「安定した生活を送りたい」という漠然とした答えも多かった。

研修後、若藤拓也君(13)は「普段、至近距離で友達と目を合わせることは少ないから緊張したけれど、面白かった」と話した。将来の夢は？

「ゲームソフトを作りたい」と目を輝かせた。

【加藤明子】

マナー研修 信頼関係学ぶ

◆湖南省立日枝中学校
 校 湖南省市岩根499
 の351-1983(昭和58)年、甲西町立甲
 西中学校から分離独立。11学級。343人。

滋賀報知新聞

平成 25 年 (2013)
3 月 14 日 (木)

トイレ掃除で心もピカピカ

必佐小 6 年 卒業前に実践

【日野】卒業式を間近に控えた日野町立必佐小学校の六年生五十三人が五日、しが学校支援センターによる連携授業として、滋賀掃除に学ぶ会のメンバー約二十人から「トイレ掃除」を教わった。

平成八年発足の滋賀（滋賀ダイハツ販売株式会社社長）は、「六年間お世話になったトイレへの恩返しだけでなく、在校生に気持ちのいいトイレを提供する目的もある。下級生のためにしてあげることので下級生が幸せになり、そして下級生が喜ぶこと」を目的として、同会の後藤敏一代表



こびり着いた便器の汚れを道具を使い分けて落とす6年生たち

とが自分たちの喜びへと変わるよう、力を結集してやりましょう」と呼び掛けた。

六年生と同会メンバーは五班に分かれ、校舎内のトイレを約一時間半かけて掃除。便器の奥底にこびり着いた汚れを目の当たりにし、「汚い恐怖症になりそうや」と顔を歪めていた児童も、最後は手を突っ込んで汚れと格闘するようになった。

野田昂陽君は「想像以上に悲惨な汚れで大変だったけど、落ちていくと気持ち良かった。下級生にはきれいに使い続けてほしい」と笑顔を見せ、巻本紗奈さんも「便器の中に手を入れるのは嫌やったけど、きれいになったからうれしくなった。家のトイレ掃除もやってみようと思う」と話していた。

第3種郵便物認可

トイレ掃除 心ピカピカ

トイレ掃除を通じて心を磨く社会人の団体「滋賀掃除に学ぶ会」(栗東市)が県内全域に活動を広げている。結成16年で行ってきた掃除は学校を中心に142回を数え、子どもたちに新鮮な驚きを与えている。

栗東の「学ぶ会」、結成16年

会は掃除を通じて自分の心と社会のすまみを無くす活動をしているNPO法人「日本を美しくする会」の県支部として1996年に発足。会社員など約30人が大津市から長浜市まで県内各地の小中高校や公共施設を訪ね、自身の修養のため無償で清掃してきた。会によると、人の嫌がる

「嫌なことも進んで」 学校訪れ子に伝える



6年生たちに床の水のふき取り方を教える滋賀掃除に学ぶ会代表の後藤さん(日野町小御門・必佐小)

最初は便器を磨くのを嫌がる子もいたが、掃除の方法を学び、ほめられるうち、進んで磨くようになった。1時間半後、トイレがピカピカになると、6年生た

ちは晴れ晴れとした表情。「トイレって『汚い』と思っていたけど掃除するのもいいな」楽しかった。「次からトイレを大事に使う」と感想を言い合った。

若手メンバーの会社員本郷祐己さん(29)は「人が嫌がることを進んでする大切さなど、やってみて初めて分かるこ

とは多い」と話す。学ぶ会の後藤敬一代表(55)は「嫌なことから逃げず、困難を自ら解決する力を養う方法としてトイレ掃除は最適。活動を広げていきたい」と話す。参加希望者は滋賀タイハツ販売内の同会事務局 ☎077(551)0081。

(八幡一男)

THE YOMIURI SHIMBUN

読賣新聞

2013年(平成25年)

3月6日水曜日



念入りに掃除する児童(日野町立必佐小)

トイレ磨いて心も磨いて

日野 必佐小 卒業前に6年生

に分かれ、体育館を除く校内のトイレ全5か所を掃除した。清掃は普段は15分間だが、この日は授業時間も充てて1時間半。スポンジや紙ヤスリ、ドライパーを使い、真剣な表情で便器や壁、水道の蛇口の汚れをこすり落としていった。植生真君(12)は「6年間ありがとうという気持ちを込めた」と話していた。

卒業を前に、学びやをきれいにし返しようとして、日野町立必佐小(今宿綾子校長)で5日、6年生53人が専門家の指導を受け、トイレをピカピカに磨き上げた。

トイレ掃除を通して心を磨こうと呼び掛け、清掃法を指導している「滋賀掃除に学ぶ会」(後藤敬一代表)の会員18人を招いて行われた。児童たちはグループ

滋賀

大津支局
〒520-0806
大津市打出浜13-1
☎ 077-522-6691
FAX 522-6693

中日新聞

遊具ペンキ塗り挑戦

愛荘 秦荘西小生卒業記念に

愛荘町の秦荘西小学
校六年生三十五人が二
十五日、卒業記念に校
庭の遊具のペンキ塗り
に挑戦した。

彦根市南川瀬町の塗
装会社「おかけんりフ
黄、ピンクなどに塗ら



うんていを塗装する児童たち
＝愛荘町の秦荘西小で

くなるけど、ペンキ塗
りは初めてなので楽し
い」と丁寧にはげを動
かしていた。

県教育委員会が、地
域住民や地元企業に
専門的な知識や技能を
生かした授業をして
もらおうと、二〇〇七
年から取り組む県学
校支援事業の一環で実
施した。

(辻井勇太)

れた遊具
が、校庭を
カラフルに
彩った。

塗装に熱
中するあま
り、顔や洋
服にペンキ
をつけてし
まう児童
も。和田法
将君は「同
じ姿勢でい
ると腰が痛

中日新聞

美食の秘訣を伝授

甲賀シェフ指導の料理講座

県内各地で活躍する「賀市甲南町杉谷の甲南シェフ」八人が七日、甲「第二小を訪れ、「食の



プロのシェフらと一緒に調理に挑む児童ら。甲賀市の甲南第二小で

匠の出張講座」を開いた。県教委、県司厨士協会、フジノ食品の主催。

シェフらは普段、ホテルやレストランなどで働く十九〜六十三歳の男性八人。校内の調理室で六年生二十四人に調理法を教えながら「近江牛のチーズ焼きハンバーグ」「瀬田シジミを使ったミネストローネ」など四種類のメニューで腕をふるった。メニューの完成後、シェフらは児童らと食事をしながら「家の料理は奥さんが作るの」「おいしい食事を作る秘訣は」などと質問攻めにあっていた。普段から調理が得意で将来は料理人志望という岡野蓮君は「料理の世界に憧れるのは、作ってあげた時にみんなが喜んでくれるか

ら」と話していた。

体験教室は、県教委生涯学習課のしが学校支援センターが進めている「地域の力を学校へ」推進事業の一環。

(花井勝規)



実験で雲をつくったよ!

彦根・城西小 天気のプロで5年生



彦根地方気象台の職員(左)の指導で雲をつくる実験をする子どもたち＝彦根市城西小で

彦根市城西小学校 五年生が対象で二学級は、彦根地方気象台の職員を招き、「天気予報と天気の利用」をテーマに授業をした。理科の授業の一環で、児童は気象の仕組みや気象衛星からの画像の見た方などを学んだ。

五年生が対象で二学級の約六十人が参加した。授業では職員がスクリーンに人工衛星の画像や雲の写真を映しながら説明。「積乱雲の発生から消滅まではわずか一時間。積雲が集まり、積乱雲になる

と集中豪雨をもたらす」などと説明した。この後、ペットボトルで雲をつくる実験もした。霧吹きで水を入れたペットボトルに、圧力を上げる特殊なキャップを装着。圧力を上げた後にキャップを取ると、急激に内部の温度が下がり、雲ができる。児童は数人ずつのグループに分かれて実験し、成功すると「白い雲ができた」と喜んでいた。

参加した北村優希さん(9)は「初めて雲に触れた。空気を冷やすと雲になることがわかって、勉強になった」と話した。

(生田有紀)

京都新聞

滋賀

第1頁

第1頁

2012年(平成24年)7月21日 土曜日



消灯数 クラスで競う

草津の小、中学校 チェックシートに記入

草津市の小、中学校で、児童や生徒が主体となり校内の節電に取り組んでいる。消灯した蛍光灯の数を調べたり、節電率の高い順にランク付けするなど、学校ごとに工夫した取り組みが見られる。

無駄を省く意識浸透

市立教育研究所の呼び掛けで行われている「スクールI S O C サツ」の一環。全校に、1時間目から6時間目までの教室の蛍光灯を消した数を数えるチェックシートを配布。各校对で行動項目を決め、点検の仕方考えた。

市立教育研究所の呼び掛けで行われている「スクールI S O C サツ」の一環。全校に、1時間目から6時間目までの教室の蛍光灯を消した数を数えるチェックシートを配布。各校对で行動項目を決め、点検の仕方考えた。

常盤小では日直の児童が教室で消灯した蛍光灯の数を数え、計算し表に記入する。点検は教師が行い、学期末に1タルの数字を出すという。5年生の一浦菜々穂さん(10)は、音楽や体育などで教室を休み中の家庭での実践も呼び離れる際にはスイッチを切る掛けた。



草津中では、クラスごとの節電をランキングして発表した(草津市)

草津中では、学級別に蛍光灯を消した割合を毎週、計算してランキングし、全22クラス中の上位5クラスを職員室前に張り出した。チェックシートの記入や計算を担当した代議員の1年北村翔吾君(13)と藤原なつみさん(13)は「頑張りが数値化されるので励みになる」と話す。

草津市では昨年度から全小中19校にエアコンを導入し、室温30度以上で使用している。同中で節電アクションを担当する地海拓未教諭(22)は「エアコンを付ける時、『蛍光灯は消すのにエアコンは付けるの』と言う生徒もいた。必要な電気は使うが、無駄に使わない節電の意識が浸透してきた」と話している。

(岩本敏朗)



新毎日

6月30日(土)

2012年(平成24年)

しが

強化プラスチック製の森林の模型(縦約1・2メートル、幅約60センチ)を子どもたちがのぞく。高さ約5メートルのミニチュアの木が並び、「荒廃森林」「健全な森林」のただし書きがある。前者は根が短く不安定だったり、根が地表に飛び出した木ばかり。後者はしっかりと根を張り、真っすぐ伸びている。森林の働きを学ぶ県の出前授業「フクロウ先生の森・守塾」のひとつだ。

「雨が降るとどうなるかな?」。県森林保全課職員が問いかける。模型の裏側にあるポンプのスイッチを押す。水が降り

ユニーク授業



森林やダム役割を模型で説明する県職員(中央) 草津市立常盤小学校で

注ぎ「荒廃森林」一帯で木が倒れ、土砂と一緒に河川に流出。下流の橋を巻き込み、小さな家とも

森林の働き 模型で学ぶ

学校支援事業「森・守塾」

ども流された。「あー」。子どもたちがため息を漏らす。だが「健全な森林」はびくともしない。

「森・守塾」は、小学4年生が間伐や木登りなどを体験型環境学習「やまのこ」の「補習」として10年に始まった。草津市立常盤小学校では10月のやまのこを前に児童51人が受講した。

模型にはダムも。堰堤を模した仕切りを河川に設置し、倒木や土砂をせき止める。同課職員は「花

を育てるのと同じ。放つたらかすのと守るのは違う。間引きして地面に光が届くよう手入れすれば、森林は元気になり、自然のダムの役割を果たす」と解説した。

同小4年、堀江美月さん(9)は「森が大切だと分かった」、一浦友佑君(9)も「木は酸素を作るだけじゃなく、町も守って偉い」と目を輝かせた。

【加藤明子】

◆フクロウ先生の森・守塾 模型とクイズ、映像で森林の働きを学ぶ出前授業。窓口は県生涯学習課しが学校支援センター。



中 日 新

トイレも心もきれい

虎姫中生 公開授業で掃除体験

長浜

長浜市の
虎姫中学校

で十八日あった公開授業で、二年生がトイレ掃除を体験した。七月の職場体験の事前学習として、勤労の大切さを実践的に学ぼうと、学校と市教育集会所が企画した。

掃除を通して心を磨く活動を展開する、滋賀掃除に学ぶ会(大津市)を中心に彦根、高島市のグループから計二十人が学校を訪れ、生徒を指導した。

二年生約五十人は校舎一、二階の生徒用や教職員トイレ、屋外トイレなどに分かれて掃除を体験。同会の加藤一男さん(左)は「便器を磨き上げることで、

自分の心もきれいになっていく感覚を感じ取った」と説明していた。教職員トイレを担当した鈴木優花さん(右)は、黄ばんだ尿石に「正直、最初はいやや



トイレの床を磨き上げる生徒たち。長浜市の虎姫中

なあと思ったが、きれいになって気分がいい。トイレに来た人に、きれいやなと思ってもらえると、すごくうれしい」と充実した笑顔をみせた。

一年生は学年総会、三年生は英語と数学の授業を公開し、校区内の虎姫小学校、とらひめ認定こども園、虎姫高校などから教職員約五十人が訪れた。

(小蔵裕)

2012.6.19 中日新聞

産経新聞

平成24年(2012) 日刊24953号

5 | 29 [火]



産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN

発行所 ©産業経済新聞大阪本社 2012
〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57
☎ 大阪(06)6633-1221(大代表)

自分の命は 自分で守る

守山で交通安全教室

交通ルール順守の意識を持つてもらおうと、守山市立物部小学校(同市二町町)で児童を対象に交通安全教室が開かれた。

県交通安全協会が協力し体育館で開催。自分の命は自分で守ることもねらいで、1、3、5年の児童443人が参加した。協会の指導員が、県内に2台しかないという自転車走行が模擬体験できる「自転車シミュレーター」などを使って児童に交通ルールの指導をした。

自転車シミュレーターを体験した3年生の工藤月渚さん(8)は「人が飛び出してきても、注意して自転車に乗りたい」と感想を述べた。

県交通安全協会によると、4月以降、県外で児童が犠牲になる交通事故が相次いだことから、県内で交

交通安全教室の依頼が増加。昨年度は開催件数は32件だったが、今年度は予約だけですでに超えているという。

物部小の奥西光彦校長(58)は「児童に交通ルールを守る意識を徹底するだけでなく、保護者や地域の方々の意識向上につながれば」と話していた。

読賣新聞 しが県民情報

馬本さんに教わりながら、細い鉄棒を熱して先を丸い形にしていく技に挑戦した



甲賀市立甲南第二小

鍛冶屋の手仕事に挑戦

甲賀市立甲南第二小学校(同市甲南町杉谷)の6年生25人が総合学習「夢タイム」生き方学習」で鍛冶屋さんの手仕事を体験した。職人の技に直接触れて興味を持ってもらおうと、鍛冶屋研究会の龍谷大理工学部教授 ちほ、細い鉄の棒を使って自分たちも順番に挑戦。三好克朗君(12)は「意外に固くて、思うようにいかなかった」とプロの技のすごさを肌で感じた様子。

馬本さんの手によって自在に形を変えていく鉄の様子に目を輝かせて見入った児童たち。馬本さんの手によって自在に形を変えていく鉄の様子に目を輝かせて見入った児童たち。馬本さんの手によって自在に形を変えていく鉄の様子に目を輝かせて見入った児童たち。

ひたむきに鉄と向き合う馬本さんの姿を見た馬野泰輔君(12)は「自分の夢は農業をやることだけだ、その夢をずっと持ち続け、実現させたいと思います」と胸を張って答えた。



高齢者の大変さ実感

彦根 稲枝中生が疑似体験

総合学習で、彦根市田原町の稲枝中学校一年生約百二十人が十四日、重りなど八種類の器具を体に付けて校内で高齢者の生活を疑似体験した。

生徒たちは、県社会福祉協議会の職員の手導で、関節が動きにくくなるようにひじやひざにサポーターを巻き、手首と両足首に重りを装着。視野が狭くなるゴーグルをつけ、階段を上り下りしたり、図書室で本を読んだりした。

永井大樹君(三)は「視野が狭く暗い場所



視野が狭くなるゴーグルなどを付けて階段を下りる生徒ら。彦根市稲枝中で

橋和奏さん(三)は「上靴を履き替えるのが難しかった。お年寄りの大変さが身に染み」と話した。

(古根村進然)

中日新聞

社会人の経験聞き
生徒ら生き方学ぶ

大津・瀬田北中

県にゆかりのある社会人らが中学生に自らの経験を話す生き方講話が二日、大津市瀬田北中学校であった。生徒に働くことの大切

さを知ってもらおうと毎年催している。

県教委の協力もあり、教師や警察官、銀行員など十六人が集まった。一年生の二百二十人が、希望する職種を選び、耳を傾けた。

このうち、元プロ野

球選手で現在は長浜高校教師の西村高司さん(五七)の講義には二十人が参加した。西村さんは階段を一段とばしで

上るなど、校内でもできる練習方法を紹介。「人より少し努力できる才能を身に付けることが、スポーツの世界

では大切」と話した。生徒は真剣な表情で

メモを取っていた。

(山内晴信)



中学生に自らの経験を話す西村高司さん＝大津市瀬田北中で

中日新聞

鍛冶作業見て触れて

甲賀 甲南第二小で体験教室

昔ながらの鍛冶屋さで馬本鉄工所を営み、
んの体験教室が二十七 鉄を加工して、すきや
日、甲賀市甲南町杉谷 くわなどの農具を制
の甲南第二小で開かれ 作、修理する馬本猶次
た。講師は守山市今宿 郎さん(六八)。今では数



少ない農鍛冶(のか
じ)職人だ。

トン、カン、トン、
カン。 炉の中でオレ
ンシ色に熱せられた鉄
の細い棒を金床(かな

とこ)に置 型の炉を授業のために
き、金づち 制作し、持ち込んだ。

を何度も振 授業に出席した六年生
り下ろす。 二十三人にとって、鍛

鉄の棒を焼 冶職人の技を見るのも
きしめるた 工具に触れるのも初め

め水の中に て。児童らは馬本さん
入れると の指導で簡単な鉄の加

「ジュー」と 工にも挑戦した。児童

いう音とと らは「僕も将来職人に
もに蒸気が になりたい」「こんなに

立ち上る。 楽しい授業は初めて」
と話していた。

作業の様子を食い入る 体験教室は、県教育
よっに見詰めていた児 委員会のしが学校支援

童らが「おおっ」と一斉 センターが進めている
に声を上げた。写真。 「地域の力を学校へ」

工房にある大きな炉 を移動させるのは無理
なため、馬本さんは小 推進事業で催した。
(花井勝規)

1月11日(水)

2012年(平成24年)

鍛冶

「職人の技知って」

守山市の鍛冶職人、馬本猶次郎さん(68)が今月27日、甲賀市の小学校に特製の小型炉を持ち込み、初の出前授業を開く。40年にわたり農具製造に携わってきた馬本さんは「子どもたちに鍛冶の仕事に直接触れてもらい、失われつつある職人の技に興味を持ってもらえたら」と意気込んでいる。

【村山豪】

甲南第二小 初の出前授業

馬本さんの仕事場は守山市今宿2の「馬本鉄工所」。父

親の後を継ぎ、鋤や鍬などを約40年作り続けてきた。同市にはかつて農具を作る鉄工所がいくつもあり、農閑期に得意先農家の鋤や鍬を集め、無償で修繕して返す「得意回り」も盛んに行われていたという。「よそに仕事を奪われないうよう、サービスで勝負して

小型炉持ち込み 児童ら実作業体験

守山の
馬本さんの



初の出前授業を前に炉の使い勝手を試す馬本さん

守山市今宿2の馬本鉄工所で

教授や窯作り業者と協力。車で持ち運べる47号四方、高さ47号の炉を約2カ月かけて完成させた。

県教委のホームページで紹介されると、昨年9月、甲賀市立甲南第二小から出前授業

の依頼があった。松永大樹(8)教諭(39)は「農業や鍛冶の歴史、職人の技術に生で触れられるまたとない機会」と話す。

27日は6年生25人を前に小物を作って見せたり、小さい鉄棒を全員にたたいてもらった。馬本さんは「硬い鉄で好きな形を作る鍛冶の楽しさを知ってほしい。将来、子どもたちの中から職人が誕生すればうれしい」と期待している。

中日新聞

パティシエの指導でロールケーキ作りを体験する児童＝野洲市の三上小で



パティシエ・北川宏さん指導 プロの技おいしくできた

野洲

野洲市の三上や、事前に用意したスポンジケーキに生クリームをのぼし、イチゴをのせて巻く北川宏さん(西セシ大津市)の作業を体験。きれいに巻きが訪れ、六年生四十二人、上がると児童から拍手が起イチゴ入りのロールケーキこった。

北川さんは「児童はのみ

同校は六年生を対象に毎年、職人や技術者、経営者進んでくれたらうれいんらを招き、職業教育をしてですが」と期待していた。

三上小

イチゴロールケーキ 巻き方など児童学ぶ

いる。今回は県洋菓子協会 田村あゆみさん(二)は「ずとフジノ食品(東近江市) ごく緊張したけど、とてもは同協合理事で、西日本洋菓子コンテスト焼き菓子部賞した。ケーキを試食した児童で最優秀賞、全日本洋菓子コンテストで入賞したパティシエ。

児童は五、六人のグループに分かれ、北川さんの指導で、生クリームの泡立て

(前嶋英則)

トイレ掃除に学ぶ

長浜・木之本中2年生

長浜市の木之本中学校で、二年生の総合的な学習の時間に、滋賀ダイハツの後藤敬一社長(左)を招いて「働くこと」を考えてもらう講演と実践活動があっ



トイレの床の磨き方を教える後藤さん(左)長浜市木之本町の木之本中で

働くこと 講演と実践活動

た。後藤社長は「滋賀ダイハツのポリシー」として「働くこと」をテーマに講演。床掃除は力が入りやすいが、「はた」つまり傷をいよう両手をついて隅々まで磨き上げた。栄養士を招き、働くことと訴え、「他人を幸せにすることが働く」と話した。実践編では、後藤社長が代表を務める「滋賀ダイハツ」の十人十色な社員を招き、掃除の意味を説明。最初一人一人の話を聞いた生徒たち。

ちはトイレ掃除に取り組みました。便器をスポンジでこすり、トイレの掃除に打ち込んでいた。同校では二年生を対象に地域の警察職員や栄養士を招き、働くことと訴えてもらう時間を設けている。十一月には職場体験学習がある。翌年二月の立志式に備える。今回は県の「しが学校支援センター」の講座を活用し、(塚田真裕)

京都新聞

滋賀

実験について熱心に質問する教育関係者
(大津市・ピアザ淡海)



多様な学習提案

企業など大津で
支援フェア

企業や市民団体が提
案する教育プログラム
を紹介した「学校支援
メニューフェア」が12
日、大津市のピアザ淡
海で開かれた。訪れた
滋賀県内の教育関係者
ら150人は、熱心に
質問しながら新しい授
業の可能性を探ってい
た。

企業や各種団体が持
つ専門的な知識や経験
を生かした授業の見本
市として県が開いてお
り、本年度で3回目。
企業や市民団体のほ
か、博物館や気象台な
ど60団体が出展した。
各団体はブースにパ
ネルやパンフレットを
置き、多様な学習を提
案した。ペットボトル
を使って竜巻が発生す
る仕組みを説明するな
ど、器具を用いて実演
する団体もあり、教員
ら興味深そうに説明
を聞いていた。
このあと、学校側と
企業、団体側が意見を
交わす連絡会も開かれ
た。
(逸見祐介)

中華料理のフロに教わりながらあん入り胡麻団子を作る島小の児童たち―近江八幡市の島小で



中華料理のシェフ講師に

島小で食育授業と調理実習

近江八幡 子どもたちに食に興味を持ってもらおうと、日本中国料理協会滋賀支部(田中理愛支部長)のメンバーがこのほど、近江八幡市島町の市立島小(新垣善博校長、119人)で食育授業と料理教室を開き、全校児童に中華料理の給食を振る舞った。

この日の先生は、田中支部長や県内のホテル、中華料理店のベテランシェフ13人。田中支部長は家庭科教室で6年生の児童21人に授業を行い、バランスのとれた食事は健康に良いという中国の言葉「医食同源」をキーワード

給食も振る舞い生徒ら舌鼓

に「好き嫌いをせず家族と楽しい食事をするように」と話した。

その後、シェフ全員であん入り胡麻団子の作り方を指導。児童は白玉粉をエバミルク、ラードなどで練り、あんを包んで全校生徒分の胡麻団子を作った。給食にはシェフの作った照り焼きチキン、肉シュウマイなどの中華料理と、胡麻団子が出され、全校児童が舌鼓を打った。

同支部は07年に京滋支部から独立。08年から地域ボランティア活動で食育授業を始め、県内の学校に出向いている。【斎藤和夫】

京都新聞

滋賀

京 都 新 聞



プロの料理人に教わりながらゴマ団子を作る
児童たち(近江八幡市・島小)

プロってすごい

中国料理

近江八幡小 ゴマ団子作り 楽しく

近江八幡市の島小で4日、ホテルなどのプロの中国料理人が児童に教える出前調理実習が行われた。

日本中国料理協会滋賀支部が食育活動として実施し、県内の中国料理人13人が同小を訪れた。調理実習には6年生21人が参加し、料理人に教わりながら、白玉粉をこねてあんこを包みゴマをまぶす「あん入りゴマ団子」を作った。料理人たちはこの後、給食室で「近江牛そぼろチャーハン」や「干し貝柱と冬野菜のスープ」などを作り、全児童が給食でゴマ団子とともに味わった。

同支部長の田中理愛ホテルニューオウミ中国料理長は「中国では正月に家族でギョーザやゴマ団子を作る習慣がある。作り方を覚え、家族で料理を楽しむきっかけにしてほしい」と話していた。(北島寛之)



子どもの育ちを支える企業団体が

12日 教職員と連絡会

【県】 滋賀県教育委員会は、学校支援メニ

提供を行っている。

ユーに登録の企業・団体と教職員らの横のつながりを強化するため、十二日午後一時から今年度初の試みとして「登録団体等連絡会」を大津市にあるピアザ淡海で開く。

県では「しが学校支援センター」を設置し、地域住民・企業・団体・NPOなどに学校を支援してもらう仕組みづくりに向け、出前授業や体験学習を実施できる支援者の情報収集・

（☎077-528-4654）へ。

なお、学校支援メニユーフェアに出展する企業・団体は次の通り。

- ▽財団法人関西棋院
- ▽WITH(アートNPO)▽滋賀県立近代美術館▽しが文化芸術学習支援センター▽滋賀県立陶芸の森・世界にひとつの宝物づくり実行委員会▽滋賀県商工観光労働部国際課▽独立行政法人国際協力機構(JICA) 大阪国際センター▽財団法人滋賀県国際協会▽M.I.H.O. MUSEUM 博物館▽滋賀県埋蔵文化財センター▽滋賀県介護福祉士会▽社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会▽佐川急便株式会社▽株式会社NTTドコモ関西支社▽滋賀県土木交通部建築課建築指導室▽大津市市民活動センター▽淡海ネットワークセンター(財団法人淡海文化振興財団)▽日本弁理士会近畿支部▽大津地方検察庁▽滋賀県健康福祉部健康福祉政策課▽大阪ガス株式会社▽明治乳業株式会社関西支社▽雪印乳業株式会社関西販売本部▽滋賀県健康推進員団体連絡協議会▽森永乳業株式会社関西支店▽全国銀行協会▽財務省近畿財務局大津財務事務所▽滋賀県金融広報委員会▽滋賀県消費生活センター▽滋賀県理容美容学
- 園▽財団法人滋賀県生活衛生営業指導センター▽おつみ未来塾「仕事人と語ろう！」グループ▽高島鉦建株式会社▽西堀榮三郎記念探検の殿堂▽個人登録講師▽滋賀県計量検定所▽NPO法人絵本による街づくりの会▽株式会社ワコール▽彦根地方気象台▽滋賀県環境学習支援センター▽NPO法人蒲生野考現倶楽部▽国土交通省琵琶湖河川事務所▽大阪ガス株式会社▽おつ環境フォーラム・子どもが遊べる川づくりプロジェクト▽滋賀の理科教材研究委員会▽おつ環境フォーラム・環境学習研究グループ▽
- シャープ株式会社▽株式会社イーエル▽滋賀県土木交通部流域治水政策室▽滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖再生課▽オプテックス株式会社▽レッツ栗東▽滋賀県立琵琶湖博物館▽滋賀県地球温暖化防止活動推進センター▽おつ環境フォーラム・里山保全プロジェクトチーム▽龍谷大学里山学研究所▽龍谷大学山学研究所▽滋賀県電力株式会社滋賀営業所▽パナソニック株式会社ホームアプライアンス社▽文芸セミナーヨ(財団法人安土町文芸の郷振興事業団)▽滋賀大学環境学習支援士」会

(3) (昭和 32 年 4 月 6 日第三種郵便物認可)

企業の授業支援 好調

登録団体は、総合学習や各教科で、出前授業や体験学習などを行う。企業や団体、大学などの専門的知識を学校へ持ち込み、子どもの学習環境を豊かにする狙いだ。県教委が専任職員として「学校支援ディレクター」を2007年度に導入し、事業を始めた。

07年度は74団体が登録し、08年度は94団体、09年度は106団体に達した。経営理念や自社ブランドをPRすることもできるため、企業側も積極的だという。

授業に活用する学校も増え、07年度10校だったのが、

運輸会社の交通安全教室 ホテルマンのマナー講座

滋賀県内の小中学校で、企業や団体が授業支援を行う事業で、県教委への登録団体がこのほど、100団体を超えた。子どもの学習意欲を高めようと、出前授業や体験学習を利用する学校は年々増えており、2月には、登録団体の連絡会を初めて開催し、一層の充実を図る。

県教委登録100団体超す 初の連絡会開催へ

08年度27校、09年度38校(予定を含む)と初年度の4倍近くになった。特に環境分野に人気が高く、運輸会社の交通安全教室や、中学2年生が職場体験を行う前のホテルマンによるマナー講座などの要望が多い、という。

毎年2月に教員と登録団体が交流する「学校支援メニューフェア」を実施しているが、今年は初めて連絡会を開き、学校側の要望の把握や人材の確保について情報交換する。県教委は「今後より充実した体制を整えたい」としている。

(立川真悟)



滋賀



京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co., Ltd.
© 京都新聞社 2010年

中日新聞

食を通じ世界の国知ろう

甲南第一小児童が料理学ぶ



シェフの指導で野菜を一口大にちぎったり、皮をむく児童―甲賀市の甲南第一小学校で

ホテルシェフ指導 トマトレタスバーガーなど3品

甲賀 甲賀市立甲南第一小学校で五日、児童がホテルのシェフから料理を学ぶ講座「食を通して、世界の国を知ろう」があった。

地域の企業や団体が学校支援の仕組み作りをする県教育委員会の事業の一環。県司厨士協会と、ホテルなどに食材を調達している東近江市の外食・加工用食品専門商社が協力し、四年生六十三人が「トマトレタスバーガー」など三品に挑んだ。

昨年の世界料理オリンピックで銀賞を受賞した大津プリンスホテルの三浦健史料理長（四七）ら七人がイタリアやドイツの動物などの形をしたパスタやベルギーの野菜「アンデューブ」、近江産のトマトなどを使い、子どもたちと調理を楽しんだ。

全員で試食し、山本涼真君（二〇）は「家でも作ってみたい」と目を輝かせた。

（宮川弘）

京都新聞

滋賀

シェフと一緒に料理に取り組む児童(甲賀市・甲南第一小)



食を通じ世界の国知ろう

シェフが料理の授業

甲南第一小

甲賀市の甲南第一小で五日、「食を通じて世界の国を知ろう」をテーマに授業があり、ホテルのシェフらから四年生六十三人が料理を学んだ。県教委の「地域の力を学校へ」推進事業。県司厨士協会とフジノ食品(本社・東近江市)が協力し、昨年の料理五輪で銀メダルを獲得した大津プリンスホテルの三浦健史さん(43)ら、県内五ホテルと地元ゴルフ場の七人が訪れた。児童たちは県産トマ

トを使ったハンバーガーや、欧州の野菜やパスタを使ったサラダ、オレンジゼリーの作り方を学び、完成させると、試食しながらシェフに質問した。藤本なおさん(10)は「うまくできた。イタリアの家庭料理のことを教えてもらった」と笑顔を見せていた。

(後藤茂典)

授業支援のメニューを教員らに説明する
企業担当者(大津市・ピアザ淡海)



今年も 出前授業 いかが

総合学習の内容を多様化し、専門性の高い授業を設けて、子供の学習意欲を高めよう。と、県教委は昨年度から企業と学校をつなぐ取り組みを進めている。フェアは昨年度に続き二回目。

企業や市民団体
大津でイベント

実験など熱心PR

これまでの実績などを質問していた。

本年度、県教委が橋渡しをした出前授業は計二十回で昨年度実績の二倍になった。メーカーの引き合いが多いという。

(立川真悟)

企業や市民団体などが出前授業を紹介する「学校支援メニューフェア」が二十二日、大津市のピアザ淡海であった。滋賀県内の教職員百五十人が参加し、企業人と授業について意見交換をした。

会場では、企業や行政、NPO(民間非営利団体)など五十四団体が集まった。持ち込んだ実験器具や教材で実践したり、パネルやチラシで意義を話した。教員らは説明に聞き入り、企業の取り組みや



読売新聞

教諭170人に 出前授業紹介

企業など大津で

専門的な知識や技能を持つ企業・団体が行う出前授業や体験学習などの学校支援メニューを紹介する催しが22日、大津市におの浜のピアザ淡海で開かれ、県内の小中学校、高校、特別支援学校の教諭ら約170人が参加した。

県教委が推進する学校支援策の一環で、県内外の54企業・団体が環境、食育、科学、国際理解などについてブースを設置。模型やパネルで実験の手順や授業の進め方を提案した。自転車をこぐと電球が点灯し、発電の仕組みがわかるブースでは、教諭らが実際に自転車に乗り、興味深そうに試していた。

愛荘町立秦荘西小の伊藤敏男教諭は「従来の授業では屋外に出る機会が少ないので、企業の協力を得て、観察や見学による環境学習を開拓したい」と話していた。



企業の担当者(右)から、模型を使った授業について説明を受ける教諭ら(大津市のピアザ淡海で)

しが県民情報

はっらっランド

甲賀市立貴生川小

甲賀市立貴生川小学校(同市水口町三大寺)の5年生97人が国交省近畿運輸局の「バリアフリー教室」に臨み、体験を通して自分たちにも出来る介助などを学んだ。

小学生対象に同教室が開かれたのは今回が初めて。バス会社や鉄道協会、同市社会福祉協議会などの協力を得て行われ、児童たちは班ごとにJR貴生川駅から学校までの約1キロを車いすで移動した。

エレベーターを使った乗降は注意しながらスムーズに出来たが、切符の購入体験では車いすではボタンに手が届かないなどの不便さに気付いた児童もいた。横断歩道ではいつも以上に注意を払い左右を確認。車いすを押してくれる人との信頼関係の大切さもあらためて実感した様子だった。校内ではアイマスクを着けて水口町内で2台運行しているノンステップバスへの乗降を体験し、天然ガス車の排ガス実験を見学した。

教室を終えて、久岡弘季君(11)は「人に優しくすることが、心のバリアフリー

心のバリアフリー大切



ノンステップバスの乗降に少し苦労する児童たち

を広めていくうえで大事だと思う」と話し、清水達久校長(60)は「命の大切さを学ぶうえで実体験は大切。相手の気持ちや社会の不便さに、子どもたち自身が気付いてくれたのでは」と教室の成果に期待を寄せていた。

第3種郵便物認可

小5、車いす体験

甲賀の「介助できる大人に」 貴生川小

甲賀市水口町三三寺の市立貴生川小学校でこのほど、5年生の児童97人が参加して「バリアフリー教室」が開かれた。写真。児童たちは貴生川駅から学校までの約1キロの道のりを車いすに乗って移動したり、アイマスクを着用してバスの乗り降りを体験したりした。

交通施設などのバリアフリー化を推進する国交省近畿運輸局が主催し、市社会福祉協議会が協力した。

児童たちは、社協の職員から説明を受けた後、グループごとに車いすを押して学校へ向かった。途中、駅の切符売



り場や飲料水の自動販売機では、車いすからはボタンに手が届かないことがわかった。体験した児童の一人は「とても不便。困っている人がいたら、手を貸してあげたい」と話した。

近畿運輸局によると、00年施行の交通バリアフリー法では、1日5千人以上の利用が



ある駅について、エレベーターの設置などを義務づけている。しかし、県内ではこの基準を超えていてもエレベーターが設置されていない駅もある。同運輸局の担当者は「高

齢者や障害者が手を貸してほしいと思う機会は多い。子ども頃から車いすの介助の方法を知り、相手の立場に立って介助できる大人になってほしい」と話している。

新聞 11月28日 金曜日

2008年(平成20年)



車いすを押す体験をする児童ら
(甲賀市のJR貴生川駅で)

児童が車いす体験

甲賀・貴生川小

国土交通省近畿運輸局は、甲賀市立貴生川小の児童を対象に、障害があっても暮らしやすい社会のあり方を考える「バリアフリー教室」を開いた。

5年生約100人が参加。JR貴生川駅前で、5、6人が一組となり、同局員

らの指導を受けながら、同級生が乗った車いすを押し始めた。エレベーターで駅構内を移動した後、路上に出て、学校までの約1キロを進んだ。また、アイマスクを付けてバスの乗降を体験した。

児童らは「バスから降りるのが怖かった。困っている人がいたら助けてほしい」と話していた。

児童助け合い体で学ぶ

車いすで1キロ移動

甲賀・貴生川小 持ち上げ歩道橋を渡る



甲賀市立貴生川小学校の児童が十四日、JR貴生川駅から学校まで一キロを車いすで移動し、助け合つ心を学んだ。

市民を対象にした障害者の疑似体験を通して、バリアフリーの社会を目指すと、国交省が鉄道やバス事業者の協力を得て行った。

五年生九十九人が五、六人ずつの班に分かれて出発。まずエレベーターで駅構内の自由通路に入り、車いすのまま切符を買うのに支障があるかをチェックした。

途中の交差点では保

車に気を付けながら、横断歩道を渡る車いす体験の貴生川小児童―甲賀市で

中日新聞

護者が横断歩道などで安全誘導。学校前の歩道橋では、子どもたちが協力しながら車いすを持ち上げて渡るなど、親子でバリアフリーを学んだ。

一方、学校では視覚障害者の苦勞を知ろうと、アイマスクを付け

てつえを頼りにノンストップバスの乗り降りも体験した。(宮川弘)

京都新聞

滋賀



車いすの移動「段差怖かった」

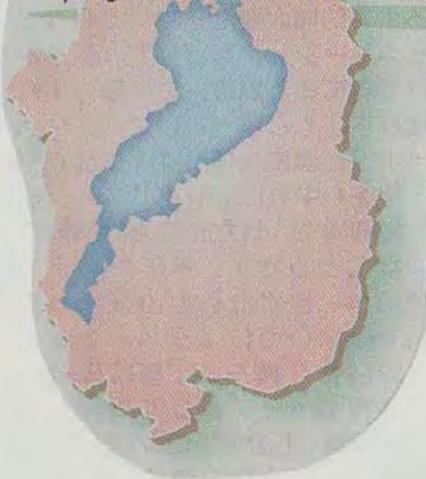
甲賀・貴生川小 甲賀市の貴生川小で十四日、「バリアフリー教室」が開かれ、五年生九十七人が車いすを使って町の移動を体験した。切さを実感していた。(後藤茂典)

国交省近畿運輸局の体験教室で、小学校での開催は初めて。児童らはグループに分かれ、JR貴生川駅から学校までの約一キロの道のりを、交代しながら車いすで移動し、介助役も経験した。また、アイマスクを着けて視覚障害者のバスの乗り降りを疑似体験した。児童らは「道路に段差がたくさんあり、怖かった」「後ろから車いすを押すのも不安定だった」とバリアフリーの大切さを実感していた。

読者新聞

しが県民情報

発行所
読売新聞大阪本社
第 739 号
滋賀編集室
〒520-0806 大津市打出浜13の1
電話 077・522・5602, 5507



情報ゲームでカード
を取り合う児童たち

ふれよう ブラジル文化

甲賀市立希望ヶ丘小

甲賀市立希望ヶ丘小学校(同市甲南町希望ヶ丘)の4年生が、県の「地域の力を学校へ」事業として国際交流員の戸沢マリさん(27)からブラジルの言葉や食文化などを楽しく教わった。

「何かブラジルのこと、知ってますか」という戸沢さんの問いに「あまり分からない」と答える児童ら。まず、あいさつから「ボンジャー(おはよう)」を練習したが、既にマスターしていたかのような完璧な発音が返ってきて戸沢さんも驚いていた。

遊び道具や楽器など班ごとに配られたブラジル特有の品物の使い方を考え、発表する場面では、子どもらしいおどろかな発想が飛び出し、世界の食文化の違いが学べる情報カードゲームでは集中して取り組んでいた。

和辻翔君(10)は「ブラジルに行ってみたくまりました」と楽しんで、戸沢さんは「お互いが分かり合える世の中になってほしい」と願いを込めていた。

学校と地域や団体とをつなぐ学校支援ディレクターの上等根美さんは「この事業には92団体が登録してくださっており、どんどん提案や紹介をしていきたい」と話していた。

2008年（平成20年）8月14日 木曜日

ロボット実演や食育、環境…

企業・団体の出張授業好評

県内の公立学校、受け入れ進む



食品企業の担当者が調理する様子（今年6月、守山市・物部小）

県内の公立学校で、企業などの出張授業の受け入れが進んでいる。社会的責任として学習支援を行いたい企業と、より専門的な内容を学ばせたい学校の思惑が重なったためだ。

教師の刺激にも

教育力へ向上

と、昨年度に県内の公立学校で企業や団体などが学校支援を行ったのは十校で、本年度は十八校が実施または予定をしている。「学校側が実験準備をする必要がないため（県教委）総合学習や理科の分野が多いという。」

製品アピールやブランドイメージ向上のため、企業などの登録も増加。今年一月に四十五団体だったが、八月には八十七団体とほぼ二倍に増えた。

普段とひと味違う授業を受ける子どもたちだけでなく、教師の刺激にもなるという、県教委は「昨年度同様、企業と教員が直接話をする出会いの場を作り、さらに促進させたい」としている。

（立川真悟）



県産ニジマスのソテーやスープ

一流シェフと

欧風料理作り

守山・物部小の児童

一流シェフと一緒に

て味わった。

料理を楽しむ調理実習の授業が二十七日、守山市の物部小であり、六年生の児童たちが本格的な欧風料理を作った。現場をつなぐ県教委の連携授業の一つ。東近江市の食品商社を

シエフに教わりながら本格的な料理に挑戦する児童たち（守山市・物部小）

通じ、コックらでつくる県司厨士協会から派遣されたホテルのシェフ六人が講師役を務めた。

実習では県産ニジマスのソテーとスペイン風のスープを作った。児童たちはシェフの素早い調理技術に驚きながらも、野菜を切ったり、調味料での味付けに挑戦。テーブルマナーも教わり、料理をおいしそうにはお張っていた。

（柿木拓洋）

最先端ロボや
しようゆ作り

総合学習 企業が支援

授業や教材 教諭に提案

県教委の企画で、県内外 説明していた。 46企業・団体が参加。環 境や文化、芸術、健康など の部門別にブースが設けら れ、担当者が教材や授業の

湖国レーダー 教育

企業担当者から太陽 光発電について説明 を受ける教諭(右、 野洲市の県総合教育 センターで)



社会貢献活動の一環とし て、学校での出前授業や体験 学習を実施している企業・団 体が、総合的な学習の時間の 授業内容や教材を提案する 「コーディネーター養成講座」 が、野洲市北校の県総合教育 センターで開かれ、県内の国 公私立の小中高校、特別支援 学校の教諭ら160人が熱心 に聞き入った。

進め方を紹介した。自転車 に乗ったロボット「ムフラ セイサク君」を出展した電 子部品メーカー「村田製作 所」(本社・京都府長岡京 市)の担当者は、「授業に 登場させ、最先端の技術を 感じてほしい」と熱心に 教諭は「私たちが持ってい

野洲で講座

ない専門的な知識を子ど もたちに伝えてくれそう」 と期待。 しようゆ最大手「キッコ

読賣新聞

2008年(平成20年) 1月30日 水曜日

発行所 読売新聞大阪本社
第19759号
〒530-8551 大阪市北区野崎町5-9
電話 (06)6361-1111(代)
http://www.yomiuri.co.jp/



発行所 中日新聞社
 名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
 〒460-8511 電話 052(201)8811



ヨシで作ったばかりに興味を示す教諭ら—野洲市北校で

「こんな授業でできます」 企業など46団体、教諭にPR

「総合的な学習の時間」に出前授業や体験学習を取り入れてもらおうと、県内外の企業や団体が、野洲市北校の県総合教育センターで、教諭らに学習支援の内容を紹介した。

県教育委員会と文部科学省が初めて開催。財政状況が厳しい中、企業の協力を得て、県教委予算はゼロで行い、県内の小中学校、高校の教諭ら約百六十人が参加した。会場には、四十六の企業や団体がブースを出店。京都市のはかり製造

会社「イシタ」は、てんびんの原理を学ぶ授業を実演し、安土町桑実寺の音楽ホール「文芸セミナーヨ」は、パイプオルガンの原理を紹介する見学会を提案していた。

高島市立マキノ北小学校の藤原弘美教諭(五〇)は「これまでは団体ごとのセミナーに参加してきた。いろいろな授業の情報が一度に得られるのでありがたい」と評価。企業側も「先生や学校と接点がないので、PRする良い機会」と成果を実感していた。

午後には、授業づくりをテーマにした講演や、教諭のグループ演習も行われた。

(勝山友紀)

京都新聞

滋賀

1/26(土)

京都新聞社
The Kyoto Shinbun Co., Ltd.
© 京都新聞社 2008年

きょうの紙面

滋賀ニュース
出前授業 活用して
野洲で紹介イベント

24

ワイド 滋賀ニユ



企業広報の説明を聞く教員ら
(野洲市・県総合教育センター)

科学、環境、国際理解… 企業や団体がメニュー提供

出前授業 活用して

企業や公的機関、NPOなどによる学校支援のメニュー紹介が二十五日、野洲市の県総合教育センターであった。教職員ら百五十人が参加して、授業への導入の可能性を探った。

野洲で紹介 イベント

は「本社は京都だが、滋賀は野洲などにも事業所があり、地元企業としてアピールしたい。出前授業を通じて、理科離れを食い止め、将来的に当社に入社することが

教職員に特性PR

総合学習の多様化と、専業・団体が参加。環境や国
門性の高い授業による子供、際理解、文化などテーマ
の学習意欲向上を狙い、プとにブースを設置した。紹
ランドイメーシを上げよう。介パネルや教材見本を前
とする企業のニーズに応、出前授業のメニューを説明
え、総合学習の企画に悩むし、教員らも熱心に聞き入
教員らを助ける意味もあつた。
村田製作所は自転車ロボ
あり、カリキュラムに入れ
られるか考えたい」と話し
センターには、四十六企一・企業広報課係長(44)ていた。
(立川真悟)



「みんなであう滋賀の教育」の推進を

滋賀県教育長 斎藤 俊信

社を超えております。

平成18年12月に教育基本法が約60年ぶりに改正され、新たに「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」について規定が設けられました。

私は、「教育」は「協育」であり、学校、家庭、地域、企業が力を合わせ、教育に関わることが大切であると考えております。

「みんなであう滋賀の教育」の推進を、滋賀県教育長 斎藤 俊信

す。そこで、本県では、取組んでおり、昨年12月には、全国から2500名の方々の参加をいたした。全国フォーラムを大津市で盛大に開催することができました。

さらに、平成18年度から設けております「家庭教育協力企業協定制度」は、子どもたちの健やかな育ちを支援することを企業や事業所が宣言し、滋賀の教育」の輪を大きく広げていきたいと考えています。

また、「早寝・早起き・朝ごはん」県民運動に

「企業の授業」 子供ワクワク



児童にアドバイスする大手電機メーカーの担当者（11月、守山市・中洲小）

滋賀県教委は、企業による授業支援を積極的に受け入れ始めた。総合学習内容の多様化や、より専門性が高い授業で児童、生徒の学習意欲を高める狙いだ。ブランドイメージ向上などのメリットから協力的な企業も多く、来年一月には企業と教師

県教委促進

が交流する機会を設け、一層の促進を図る。

県教委は小中学校向けに公的機関や企業による学校支援メニュー一覧表を作成しており、学校側は総合学習や各教科で支援の要求があれば、県教委に連絡する。企業との調整をしたうえで授業に派遣する。

本年度、県教委は学校支援デバイスレクターを配置し、学校と地域、企業との連携を模索してきた。特に学校は企業とのつながりを持ちにくいいため、県教委が仲立ち役に力を入れることにした。

十一月下旬には県教委の仲介で守山市の中洲小など二校で企業の支援授業を行った。高学年を対象に、大手電機メーカーの担当者が地球環境や電気などをテーマに教壇に立った。メーカー側も専用の教材を用意し、ク

環境や電気 専門知識ふんだんに

イズや実験を交えた普段と違う雰囲気では、初めに盛り上がりがあった。

来年一月、野洲市の県総合教育センターで開く「総合的な学習の時間コーディネーター養成講座」では、初めて会場に企業二十社のブースを設け、教師と交流を促す。

また、工業高校向けに地元企業が出張授業を開催する。県内に多い製造業に必要な人材育成の一助にする狙いだ。

企業側も姿勢を知ってもらい、製品アピールにもなるため授業メニューを持つケースが増えてきている。県教委は「子供には新鮮味のある授業で、教師には刺激になる。長期的な計画の中で授業に適宜取り込めるか」という課題もあり、慎重に吟味しながら情報を提供したいとしている。

滋賀夕刊

ボランティアの「入口」

米原中学生が見学

米原中の3年生は11日、米原公民館でボランティア学習を行う。

県教委は今年度から「地域の力を学校へ」推進事業をスタート。学校支援ディレクターが県内を回り「授業」と「地域団体」との連携を図っている。

米原中では「ボランティア」について学習。公民館の協力で生徒たちに特技、趣味を生かしたボランティア活動への参加を促したり、将来のNPO、ボランティアの担い手育成に向けての支援を行う。

授業では市民利用者の作品を見学するほか、公民館のボランティアの足跡について感じたことを話し合う。